

## ▶【芸術交流宅配便】「ルードバリス軽音楽ワークショップ」レポート

2012.11.13

アコーディオン：新井武人      コントラバス：脇山拓  
クラリネット：井上高志      パーカッション：Rieko

ルードバリスとは、フランス語で「ワルツ通り」という意味。その名の通り、小粋で軽快な音楽を奏でるこのユニットは、アコーディオンをリーダーに楽しいワークショップを実施しています。

11月13日（火）は老司小学校、12月5日（水）には西長住小を訪問。会場の体育館は12月ともなると冷え込んでとっても寒かったのですが、子供たちは元気いっぱい、ワークショップを楽しんでくれたようです。



ルードバリスの皆さん。まずは軽快なナンバーを演奏します。



パーカッションにも色んな種類があります。（中央右）一見ただの箱のようですが、立派な打楽器なのです！



クラリネットって、こんな楽器！木でできています。三択クイズ（プラスチック・木・鉄）では、「木！」と正解できた児童が多かったです。みんな、興味深々！



楽器の体験コーナー。それぞれ試したい楽器の前に、子供たちが並びます。



右側のユニークな楽器、見た目のとおり「ウォッシュボード」（日本語で洗濯板）といいます。かき鳴らすために、特別な指ゆきを装着して演奏。子供たちの人気をさらっていました！

そのあと、ルードバリス版アレンジの校歌を披露、みんなで歌ったり、ポップな曲に合わせて全員でレッツダンス！

リーダーの新井さんは、「音楽を思い思いに楽しんでほしい」と言います。文字どおり、音楽の楽しさを満喫できたワークショップでした。